

令和4年度 第1回土佐町 SDGs 推進会議 議事録

日 時：令和4年5月16日（火）18：30～

場 所：あじさいホール

参加者：【推進員】竹政敬生、伊藤真奈美、上田大、井手正、和田純一、佐賀野智範、上田昌宏、山下洋平、杉本理奈、田岡三代、谷泰久、川村幸司、谷脇智宏、佐藤恵、神原咲子、松本明（zoom 参加）

【企画推進課】尾崎、町田、澤田

室長挨拶・日程説明

【議事】

1. 土佐町版 SDGs（第7次振興計画進捗指標）の状況について

室長から説明

委 員：指標の3-2について、現状値が空欄なのは数値目標ありきではなくて、自分達が楽しいと思うことをした結果、数値が上がっていけばという思いから。報告として、昨年は3,144名（利用者）、教室やイベントが増えたことで順調に人数は伸びている。

委 員：矢印表記で上向きなのか横ばいなのか一目でわかり見やすい。素人にも分かりやすくしてもらっているのは有難い。SDGsの取り組み自体を役場の職員がどれだけ意識しながらやっているのか、というところを聞きたい。日頃の職員への働きかけも含めて。

室 長：SDGs推進室ができ、各課に1～2名の推進員を配置。月1回の定例会で情報を共有している。その中で新しい取り組みも出てきている。一方で福祉・健康・教育など動きが取りづらかった面もある。健康福祉課などコロナ対応で忙しい中、推進室としてこういうことを新しくやっといこうと言いつらいところもあった。今は緩やかではあるが少しずつ前向きに進みつつある。ただ、町民の方には見えづらいかとも思う。推進会議もなかなか開催できなかった。

委 員：全町民がモチベーションを上げて参加できる取り組みが今年度はできれば。例えば、温室効果ガス削減のため嶺北観光バス満車デーとして、その日だけは車で通勤せずにバスで通勤するとか。みんなが参加しやすい、参加することで自分達も関わりがあるんだと思えるような取り組みができれば。

室 長：福祉部門でいくとケアマネを田井内科がやめられ、早明浦病院中心で動いているというところだと思うが、担当課も今後どうすれば良いのか悩んでいるよう。

委 員：ケアマネに関しては有資格者はいるが更新が必要。仕事内容も多岐に渡りかなり大変なので、何か支援できる体制があれば。研修費を助成するとか、町からケアマネの賃金改善の手当を出すとか、ニュース性があるので人材の呼び込み

にも繋がるのでは。ケアマネがないと居宅サービスが提供できない。事業者への支援・助成も必要。

室長：一次産業（農畜林業）に関して、今後どう舵をとって行けば良いか、ご意見いただければ。

委員：持続可能な農業ということでドローンを導入など、若い方にも魅力ある農業ということで取組んでいる。人のつながり、地域の後継者づくりということで一つの通過点として実施している。現実として採算性が取れないのが現状。お米の価格も一袋7千円以下、草刈りなど労力がかかる。地域を守っていく、暮らすためには水が必要ということで水路など整備している。棚田などの地形を考えると、収益を上げて農業だけで生計を立てることは難しい。補助事業たくさんあるが、故郷をどうやって住みやすい街づくりをしていくかということを考える必要がある。働きながら農業もできるような形、地形的に大規模な機械を入れることはできないので、小さな小回りのきく、そして続けていける農業をどう考えていくか。気候変動も激しく時代も変わってきている中で、JAさんも含め今後の取り組み方など意見を出し合いながら進めていく必要があるのでは。

室長：教育、子育てについて。コロナの影響を受けて制約を受けることが多い分野ではある。

委員：昨年度は休校になったり、授業の遅れや行事の中止を余儀なくされた。今年度は何か楽しめることをと話していこうと考えている。子ども会の活動でも何かできればと話している。子どもたちができなかったことを、なんとかやしていこうと思っている。

委員：自身の子供が市内に進学してみて感じたことは、学校との関わりがないということ。参加日もあるが土佐町中学校とは全く感じが違う。土佐町の学校は地域や家族が入る学校だったなと子どもを育てていて思った。いろいろ課題はあるとは思いますが、今一度いい形で親や地域が関わりを持てるようになればと思う。

委員：学校としてはコロナ対策に注力していた。保育園では高齢者との関わりがなくなったので、その辺りもどうにかしていければと思っているところ。

2. 令和4年度の取り組みについて

室長から説明

委員：娘がそら組。子供がSDGsのことを自分のこととして話してくれるようになった。夕ご飯を好き嫌いせず食べる、マイバックを持っていく、小さいながらに分かってきている。生活に根ざして変わっていこうという姿が感じられた。（海外の方との交流）お金かけなくても、町内にいる外国の方と交流を持てる。

委員：女性の社会参画促進にも繋がるかもしれないが、オンラインプラットホームの可能性を教えてほしい。

室 長：慶應大学の学生が起業みたいな形で、新たに仕組みをつくっている。オンライン上にいろんな意見交換をできる場を作って、議論していく。それを行政にも届けるといふ仕組み。ご縁があり、一緒に考えていきましょうというところ。ただオンラインだけでは難しい面もあるので、土佐町の中どうやっていくのが良いかなどスタートをどうするかというところ。今後オープンにしていければ。

委 員：長年課題だった中学生の朝練の送迎もチョイソコ事業で対応してくれた。町民向けの町内観光ツアーが実現されたことにも感激している。

子どもたちが資格を取れるカルチャー講座など田舎でもできないか。整理収納アドバイザーはリモートでも資格が取れるらしい。

委 員：スポーツについて。地元外の方が来た時、わくわくするような看板とかがあれば。欧米のような感じで。空前のアウトドアブームで田舎にも来てはくれるが、地元の資源が活用されていないので、改善できれば。地域の資源を開拓する取り組みがあれば。またそこに町の予算がつけば動きやすいと思う。愛媛県では大きなトレイルの大会も開催される。土佐町にも素晴らしい山道、トレイルができる環境がある。行きはハイキング、そして事前に山頂に自転車を上げておいて、帰りはその自転車で下山など。ハワイなどは普通にやっているが日本ではあまりないので、他とは違うというところで取り組む価値があると思う。

委 員：子ども会をやっているところとやっていないところがある。入りたくてもどうしたらいいかわからない。子どもも少ないので地区の範囲を広げるなど、行政でやってもらえれば有難いと思う。また、川遊びを土佐町でできる、安全に遊べるような取り組みができないか。大人の目がなくても遊べるような。水の活用の一つになるのでは。低学年の ICT について、高学年は勉強するが低学年は遊びになってしまう。1・2時間でも授業をしてもらおうなど低学年からあればと思う。

室 長：この場に出てきた意見を町民も一緒に巻き込んで考えられれば。

3. 推進会議の開催方法について

室長から提案

- ・対面開催を基本
- ・分科会形式の導入

委 員：役場の担当と委員でこじんまりと意見を共有できる場があればいいと思う。

委 員：予算編成に合わせて開催スケジュールを組むのは良いと思う。

室 長：次回の推進会議は原案のとおり9月とさせていただきます。より詳細な議論ができるよう分科会を設置する。分科会の分け方や、開催方法（9月の推進会議自体を分科会形式とするか、推進会議に先立って分科会を開催するか等）は、早めに事

務局案をまとめ、別途ご相談させていただく。

(その他)

委員：分科会が必要ないぐらいすばらしい。この場を撮影して役場の職員が見ることができれば、雰囲気も感じられていい。分科会については、新たな分野でチームとして活動されるのが良いのでは。

委員：指標の矢印表記はよい。可視化が重要。今後その矢印がどう上向くのか、どうすれば良いのか話すきっかけになる。

委員：指標に対しての原因、構造など深めていくと繋がりが出てきそう。

【会議中の委員付箋メモ】

※委員からの発言以外でのコメント等を付箋で残していただくようにしました。

- ・住民への取り組みの伝え方→地区会の資料に1枚追加して書類を配布する。
- ・目標を時期別に取り上げて住民へ伝えたら良いのでは。
- ・SDGsの回覧について、字が小さくて見る気がおきないという声を聞く。みんなでせっかく考えたのにもったいない。見やすい・見たい資料に。
- ・留学支援や奨学金を受けた子どもたちがオンライン家庭教師や授業をする。メンターになる制度→サードプレイス
- ・津野町の「川のプール」みたいな場所がほしい。
- ・体験ツアー→各地区の神社まわりたい。(地域の神祭を見にきてほしい。舞、踊っています。)
- ・トレイルランなど大会をやる→大会運営費は行政でまかなう。参加費は草刈りなどの運営費に回すなど。
- ・ケアマネジャーの件は重要なテーマ。ニーズはあるが経済性が合わない状況か。QOLとしても、経済的にも居宅介護は重要。
- ・お米の価格上向きになるには→学校給食で買い上げることから始めては。
- ・憧れる先輩の存在を通じて子どもの進路の幅を広げる。
- ・親、先生以外で頼れる存在→緩やかなコミュニティ(サードプレイス)。英語教育の嶋津さんがやっているLinguaHackersみたいな形とか。○時間以上協力すれば奨学金は返さなくていい+アルバイト代など。→町外に出た優秀な子どもが、子どもを通じて町とつながり続ける。

(指標について)

- ・子どもらしいなにかをできないかな……。コロナでは本当に大変だった。
- ・インディケーターどうしの因果、相関予想図のようなものがMiro(補足:オンライン

のワークショップ用ツール) ででもできるといい。多様な枠組みに入れていけるような活動がでいたら良い。

- ・これをしなければならない、というコントロールではなくこれをしたら大丈夫を
どんどん増やそう。 >>大阪の飲食店
- ・ケアマネさんの負担軽減を考える。なんでだろう、から考える。なにか新たな方法を
考えられないか。
- ・(コロナで忙殺された部署でもあり動きづらかった。) こういう時こそ
transformation>digital が大事ですね。
- ・気候変動に対応する農業とは。
(令和4年度の取り組みについて)
- ・資源探し。資源活用・アウトドア・インフラ・文化・スポーツ。福祉。。 どんどん
分野を超えている。
- ・トレイルコース。ハイキング。帰りは自転車。 >>+カヌーもありでは。
- ・こども会、川遊び。安全に遊べるような。 >>のUniversal Design + インフラ整備+
- ・分科会に対して動画をシェアする。
- ・まちの中で楽しめる、オンライン、世界で楽しめる自分づくりへの投資。
- ・(現在準備中の事業について) 内容を知りたく、伸ばすところは何処か。